

『NSタフクラック・P』 クラック補修工法

リフォーム現場を訪れた際、クラックが発生している箇所を発見。

通常のパテで施工したが、クラックが再発生してしまい、その補修に...



クラック発生個所での再発生防止には『タフクラック・P』をお使い下さい。

微弾性・強接着・高強度の『タフクラック・P』をお使い頂く事で、クラック発生が格段に少なくなります。

(※パテでクラック発生の主な原因となる下地材の動きを全て止める事は不可能です。)

・施工方法は、

①クラック(ひび割れ)部



②古いクロスを剥がします。



クロスの剥がしは丁寧に、
浮きや膨らみのないようにして下さい。

③クラック発生個所に対してカッターなどでV溝を造ります。



削られたV溝表面の剥脱を防ぐためにシーラーを施します。
せっこうボードであれば、『NSパワーシーラー』を2倍程度に
希釈して塗布して下さい。

※下地材の状況により、必ず適切なシーラー処理をして下さい。

④『タフクラック・P』を混練します。



本来の強度を発揮する為に、所定の混水量(40~44%)を
守って下さい。(混練ムラを防ぐため手練りはお控えください。)

⑤V目地部に『NSタフクラック・P』を塗り付けます。

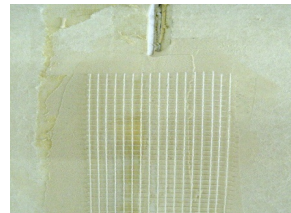


V溝の奥までパテが充填されるように、『タフクラック・P』を
埋め込む様に塗りつけて下さい。

硬化後のサンダー掛けは硬くなりますので、段差部を除いて
「盛らない」様にして下さい。

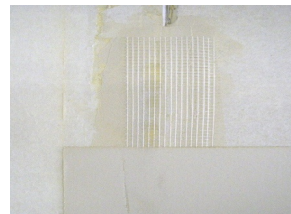
また、硬化する前に余分なパテをしごき取るように落として下さい。

⑥硬化後、ファイバーテープをしっかり貼り付けます。



状況に応じて、ファイバーテープの貼り付けを検討して下さい。
薄型の『スリムファイバー48』等もお薦めです。

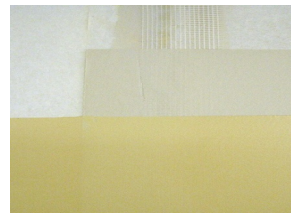
⑦ファイバーテープの上から中塗りをを行います。



網目にもしっかり充填される様に塗りつけて下さい。

各工程でのパテ処理は、パテ面が十分乾燥してから実施して下さい。
(乾燥しないまま行いますと、接着不良や変色の原因になります。)

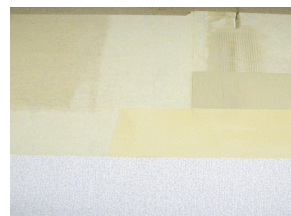
⑧仕上げパテを塗り付けます。



上塗りパテは通常の施工より、若干狭めに塗りつけて下さい。

クロス仕上げの場合にはNSメリットやハイコート、
塗装仕上げの場合にはNSニューオルマーがお薦めです。

⑨仕上げ。(クロス・塗装など)



仕上材により、必ず適切なシーラー処理をして下さい。

※その他、詳しい注意事項はホームページ・カタログ・
製品箱記載文・製品安全データをご参照ください。



弊社では様々な種類の内装用目地処理パテを取り扱っております。
その組合せによって、作業性の向上を図り上記の様な問題を防ぐ事も可能です。

内装用・目地処理材の総合メーカー

 株式会社 ニットー

本社・大阪営業所 大阪市西区川口3丁目10-30

名古屋営業所 名古屋市中川区富田町千音寺西尼ヶ塚144-2

T:06-6582-4920 F:06-6582-4903

T:052-432-1133 F:052-432-1131